

西南学院中学校・高等学校 広報誌



contents

- 1 特集
- 2 特集 SEINAN VIEW
- 3 A Step Forward 西南の教育の現在とこれから  
留学体験記 西南にこの人あり
- 4 SEINAN NEWS
- 5 卒業生便り 赤れんが 卒業生 interview
- 6 過去3年間の大学合格者数  
私の合格体験記 校長挨拶 聖句

「麦」とは

麦は聖書の中にたびたび出てきますが、とりわけ『新約聖書』ヨハネ伝12章は有名です。そこでは一粒の麦が多くの実を結び、やがて多くの人々に恵みをもたらすとあります。この教えを受け、世界で「一粒の麦」たらんと校内外で活躍する、在校生、卒業生の動向を中心に取り上げ、本校での教育の今をお伝えしたい。このような願いのもとに「麦」と名付けられました。

西南学院中学校・高等学校

〒814-8512 福岡市早良区百道浜1丁目1番1号 TEL.092-841-1317  
ホームページ <https://hs.seinan.ed.jp/>  
公式YouTube <https://www.youtube.com/@SWmomochihama111>  
[発行日]2024年4月1日 編集 西南学院中学校・高等学校広報誌委員

特集

戻ってきた学校行事

国内での新型コロナウイルス感染症の蔓延から丸4年が経ちました。不安と混乱の中、それでも教育の営みを止めてはならないという信念のもと、様々な対応策を考えながら手探りの中で過ごしていた日々が懐かしく感じられるようにもなりました。そのような日々はまさに私たちにとって試練の連続でしたが、時に試練は私たちに思いがけない気付きを与えてくれます。

例えば、学校行事。そもそも学校行事というものは全国どこでもある程度共有されるイメージがあって、そこにその学校独自の色合いが足されていくものだと思います。西南学院も長い歴史の中で作り上げられてきた文化があり、中高ともそれぞれの「色」が確立されていました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で従来通りでの実施が難しくなりました。幾回かの中止や延期、完全学内関係者のみでの実施などを経て、昨年度は新たな形での実施となりました。象徴的であったのが中高合同

体育祭です。西南学院は1996年から中高一貫校としての歩みを始めましたが、それまでは同じ敷地内にあってもそれぞれ“別々の学校”でした。それが一貫校になったことで様々なものが一緒になっていきましたが、体育行事は別に行われていました。それがこの度の学校行事の見直しに伴って合同で行う可能性を探り、実現へと至りました。詳しくは2面で特集を組んでいますが、本校にとって大きな転換点となる行事であり、新たな日常の幕開けでありました。

このように「新たな」日常も戻ってきましたが、「これまでの」日常も戻りつつあります。本校には文武両道を体現している生徒が多く在籍していますが、感染症が猛威を振るっていたころは思うような活動ができていない部がほとんどでした。しかし、徐々にそれも緩和され活動に打ち込める日々が戻り、その努力が実を結びはじめています。

「新たな」日常と「これまでの」日常を織り交ぜつつ、私たちの歩みは進んでいきます。



沖縄で平和を考える(中学校 沖縄修学旅行)



新入生を温かく迎える在校生(高等学校 始業式・対面式)



BLACK BOTTOM BRASS BANDを招いて(中学校 音楽鑑賞)



全国選抜大会出場を果たす(中学校 硬式テニス部)



この一球に思いを込めて(中学校 ハンドボール部 九州大会にて)



真剣な面持ちで盤に向かう(高等学校 囲碁部 全国大会にて)



## 西南学院での成長

2023年9月11日、13日の2日間で、西南学院中学校・高等学校で史上初となる中高合同体育祭が開催されました。今まで中学校では体育祭、高等学校においてはスポーツフェスティバルという行事が行われていましたが、中高が合同で体育祭を開催するのは初めての試みとなります。

1日目の9月11日は本校のグラウンドが舞台となりました。午前中は中学生と高校1年生、午後は高校2、3年生の競技を行うという工夫を凝らしながら、1日を通して熱い戦いが繰り広げられました。学年別のリレー競技など、同じ学年が相手だからこそ、負けられない勝負となっていました。また、大縄など、クラスで丸となって取り組む競技も1日目に行われ、各クラスが団結する良い機会になりました。舞い上がる砂埃の中、懸命に競技に取り組む生徒の真剣なまなざしからは、自分たちに今できるベストを尽くすのだという決意と、PayPayドームで開催される2日目への期待とが感じられました。

2日目の9月13日は、PayPayドームでの開催となりました。ドームに入った瞬間、「天井が高ーい!」「芝生がきれい!!」と生徒たちから歓声が上がります。普段はテレビ画面の中で見ている景色の中に、今自分が立っている…。その感動は、生徒たちにとって一生忘れられない思い出となったことでしょう。PayPayドームでの2日目には、帽子とり騎馬戦や団対抗のリレーなど、中高の学年をこえた5つの団で競い合う競技が多数実施されました。それ故、団全体で協力しての競技者応援なども、これまでの体育祭やスポーツフェスティバルとは比べ物にならないほどの迫力でした。団全体での競技が多かったというのもそうですが、PayPayドームの大きなスクリーンに生徒たちの活躍が映されていたのも盛り上がった要因の1つだと思います。自分や友人たち、先輩、後輩たちが映るとスクリーンを指さしながら嬉しそうな顔をしている生徒たちの様子がほほえましく、今回の体育祭での忘れられない場面の1つです。

中高合同で体育祭を開催するにあたっては、様々な方の尽力を欠かすことはできません。体育科を中心とした本校教職員、運営にあたってくれた生徒会や、実行委員、懸命に競技に取り組んだ生徒たち。どれか1つの要素が欠けてしまっても、今回の中高合同体育祭の成功はなかったと思います。中高合同体育祭を行う意義というのはたくさんあると思いますが、その中でも、競技する生徒たちにとっては、他学年の生徒の存在を感じながら競技に取り組めたことが重要な意義だったように思います。異なる学年の生徒たちが同じグラウンドで競技をすると、生徒たちは、西南学院での6年ないし3年間の成長の過程をそれぞれの立場から感じることが出来ます。中学生は高校生の姿を未来の自分に重ね合わせたでしょうし、高校生は中学生の姿を見て自分たちの成長を実感できたと思います。西南学院での成長の過程を実感したうえで、自分はどういう人間でありたいと思うのか。生徒たちにとって、今回の中高合同体育祭がそのようなことを考える機会であることを願ってやみません。

### SEINAN VIEW

#### 中学校と大学の連携講座『ともに生きる』 人権・「同和」教育の一環として

2023年11月9日、中学校の生徒18名と西南学院大学人間科学部社会福祉学科の学生10名による交流会が行われました。

この交流会は、中学校の人権・「同和」教育の一環として、また大学の社会福祉学科・河谷はるみ教授のゼミ活動の一環として、初めて中学校と大学の連携が実現し行われたものです。

交流会では「ともに生きる」というテーマのもと社会福祉を専門に学ぶ学生らを中心に企画・運営され、生徒によるアイマスク体験が行われました。その後、中高の卒業生でもある野田周佑さんから「こころのバリアフリー」と題した講演が行われました。野田さんは生まれつき首から下に麻痺があり、講演では当事者の

視点から自身が過ごした中学校や高校時代の話や現在の学生生活について紹介。また、野田さんは「障がいのある人と接する際は、障がいを正しく知ること、知ろうとすることが大切です」と語り、生徒らは野田さんの話に熱心に耳を傾けていました。

交流会に参加した生徒からは「障がいのある人を見かけたときは、見た目で判断しないようにしたいです」といった感想が寄せられました。中学・大学の双方で福祉の学びを深める貴重な機会となりました。

当日の様子はこちらでも紹介しています→  
<https://www.seinan-gu.ac.jp/news/2023/15139.html>



# A Step Forward

西南の教育の現在とこれから

## 中学校

### 自分と相手を大事にするために

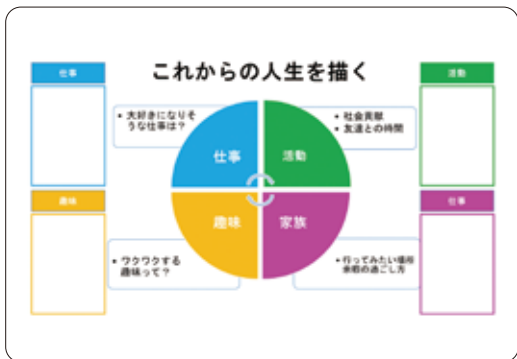
アンガーマネジメントの授業から



#### 生徒の声

「人にはいろいろな感情があるので、その感情が起こった理由をちゃんと理解して、その気持ちをどうするのが大切なんだと思いました。また、自分にもあるように、相手にも感情があるので、相手の気持ちを考えることが大切だと思いました。それぞれが相手を認め合っていくことでさらに学校生活が良くなるんだと思いました。」

2023年10月27日、11月10日、17日の3日間で、アンガーマネジメントの授業が行われました。「自分は何に対してどの程度の怒りを感じる人間なのか?」「相手に自分の意見を伝えるときにどのような言い方だと伝わりやすいのか?」このような問いに向き合いながら、生徒たちは、自分の感情を見つめていくことや相手の立場に立って考えることなどを学んでいきます。自分と周りの人たちと、どちらも大切にしていける尊さと難しさを学ぶ機会になったと思います。



## 高等学校

### 10代から学ぶパーソナルファイナンス

金融講座の授業から

契約や投資など消費生活を具体的に、身近に考える機会となるよう、1年生を対象に金融講座を行っています。2023年度は卒業生の井口忠二さんより、収入と支出の管理、クレジットカードにおける契約、貯蓄や投資についての講義がありました。自分のニーズ(必要なもの)とウォンツ(ほしいもの・やりたいこと)を整理して予算立てをすること、金融商品のメリットやデメリットを知った上で自分の目的に合った商品を選ぶことの大切さが伝えられ、実際にライフプランを立てて共有するワークショップを行いました。生徒からは「大学に進学するか、結婚するか、家や車を買うかなどで必要なお金が大きく変わることを知りました。本当にやりたいと思える仕事を見つけて、夢を実現するために貯蓄したり、金融商品を選んでいく目を養いたい」という声が聞かれました。



## 20年間、ありがとう!

シンボルツリー最後のクリスマス

よかトピア通りに面したクリスマスツリーの引退、植え替えが報告されました。2003年に中高が現在の百道浜キャンパスに新築移転した20年前、新しいキャンパスにシンボルとなるクリスマスツリーをと設計に盛り込み、中庭に植えるか、通りに面した現在の位置に植えて地域の方々にも見てもらえるものとするか相談したことをなつかしく思い出しました。以来20年、毎日大量の排気ガスを浴び、年々強まる酷暑の中立ち続け…数年前にシロアリ被害に遭い、手当てをしたものの思うように元気にならず、植え替えの判断に至りました。毎年、たくさんの電球を身にまとってクリスマスの訪れを知らせ、日没後暗くなった中、下校する生徒たちの足元を照らしてくれました。お疲れさま、ありがとうございました!ラストランならぬラストライトを見ながら、私たちにも訪れる卒業・引退の時まで、イエスさまをこの世界にお送り下さるほどに私たちを愛し、学院での学び・働きへと招き、育てて下さっている神さまに应えて歩む思いを新たにさせられるクリスマスとなりました。



## 西南に この人あり

世界情勢の変化や困難に直面して不安になる時、私たちは知恵を絞り、解決策を考えます。異なる意見がぶつかることもあります。ですが、そこに神様の存在があり、向かうべき方向があることを「祈り」を通して思い出し、違いを違いのまま受け止め、安心して議論ができるのが西南の良さであると思います。社会の授業では、歴史、地理、政治経済のしくみを通して、国内外の解決すべき課題を知り、どのようにしてバックグラウンドの異なる人々と共生していくかを考えて欲しいと願っています。



社会科  
田代 真紀子先生

## 留学体験記

アメリカ ワシントン州に留学



### 充実した留学生活!

高等学校 浄見 月皇子さん

2022年の8月からアメリカのワシントン州アイゼンハーワース高校に1年間留学しました。さまざまな国の留学生たちとともに切磋琢磨しながら語学習得に努めました。留学したことで人と人が会話を通して理解しあうことの大切さを学ぶことができました。学んできたことを活かしながら、残りの西南での学校生活、日々精進したいと思います。



数学科  
白奥 聡先生

数学教員として23年勤めております。気付けば人生の半分以上をこの西南学院で過ごしていることになりました。

数学は与えられた条件、公式、定理を用いて問題に取り組む教科です。この「限られた状況で問題を解決する」という能力は、社会に出て求められる能力です。生徒たちには、数学のみならずあらゆる物事に、論理的に思考し取り組むことができるようになって欲しいと願っております。

# SEINAN NEWS

## 中学校

### 吹奏楽部

#### 福岡県大会出場!!

吹奏楽コンクールにおいて、福岡地区代表、福岡支部代表(金賞受賞)と勝ち進み、県大会に出場しました。県大会出場は16年ぶりの快挙です。「金賞を取る!」という強い意志のなか、一丸となって演奏した結果です。今回のことを自信に変えて今後も頑張っていきます。



### 卓球部(女子)

#### 福岡市大会初優勝の快挙!



福岡市大会で、女子卓球部は区大会に続いて優勝することができました。同じく目標を叶えて卒部した先輩たちの思いを受け継ぎ、また高い目標に向かって挑戦する中で、悔しいこともありました。ですが、共に卓球を始めた仲間と日々励まし合いながら成長し、周囲のたくさんの方に支えていただきながら全員で目標を達成できて、とても素晴らしい1日になりました。ここからまた、新たな目標に向けて、皆で挑戦していきます!

### 卓球部(男子)

#### 新人卓球大会、優勝の大躍進!

2023年12月23日、第40回福岡市中学校新人卓球大会が行われ、見事市大会優勝を果たしました。全員中学から初心者でラケットを握り、部員のみならず切磋琢磨し、福岡市内外の学校との練習会を重ね、部員全員でつかんだ勝利となりました。卓球部で掲げる「人作り・仲間作り・思い出作り」を胸に、これからまた成長できるように研鑽を積んでいく集団となることを願っています。優勝おめでとう!



2023年度  
各部・同好会  
その他  
**TOPICS**



### 硬式テニス部

2023年12月、神戸市で行われた全国私立中学校テニス選手権に西日本ブロック代表として出場し、入賞はなりませんでしたが第11位という結果でした。全国という舞台を経験することができ、今後の大会に向けて大きな自信となりました。



### 国際交流

**訪豪研修旅行を実施しました**  
2023年8月1日から10日間、中学校としては初めての海外研修(豪)を実施しました。ホームステイをしながらホストシスターやブラザーと共に現地での学校生活を送る中で、異文化を体験し、国際感覚を養う大変素晴らしい機会となりました。

## 高等学校

### 囲碁部

#### 創部20年 九州大会・全国大会出場

第38回福岡県高文祭囲碁部門大会において、九路盤個人戦で3名が同率準優勝、団体戦で女子が優勝、男子が準優勝を果たし、第6回全九州高等学校総合文化祭に進出しました。全九州高等学校総合文化祭では女子団体が3位、男子団体が8位となり、上位2チームが進出する総文祭への出場は果たせませんでしたが、部員にとって良い刺激となりました。また、第47回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会全国大会に団体女子が出場しました。団体女子の全国大会への出場は創部以来初めてです。



### 写真部

#### 全国大会出場!! 作品「雀の涙」奨励賞



昨年12月に開催された福岡県高等学校総合文化祭写真展(県大会)において、古賀千晴さんの「雀の涙」が参加人数904名、総応募数4,900点の中から上位10点に与えられる大賞を受賞しました。福岡県代表として鹿児島県で開催された全国高等学校総合文化祭(全国大会)に出場し、全国から出展された307点の中から上位11-30位にあたる奨励賞を受賞しました。

### 探究活動

#### 探究活動で

#### 総合的な問題解決の能力を育成

総合探究の授業において、アイデアをまとめてエントリーしたSDGs QUESTみらい甲子園九州北部エリア大会で、12チームが選ばれるファイナリストに本校から2チームが選ばれ、1チームがSDGs QUESTアクションアイデア優秀賞を受賞しました。また、希望者対象の放課後探究では企業インターン体験を行い、クエストカップ(全国大会)に1チームが進出しました。



2023年度  
各部・同好会  
**TOPICS**



### ヨット部

和歌山県で開催された全国高等学校ヨット競技大会において、女子コンバインド第6位。男子420級に田邊・三牧組が出場。女子レーザーラジアル級に出場した下石雅楽さんが第4位、小串麻理さんが第9位の結果を残しました。また、鹿児島県で開催された国民体育大会において、下石雅楽さんが少年女子レーザーラジアル級に出場し、第4位という功績を残しました。



### 剣道部(男子)

福岡市総合体育館で開催された福岡県高等学校剣道大会福岡県予選大会において、団体戦第3位という優秀な結果を収めました。また、福岡県高等学校剣道大会新人大会の個人戦において、小柳隆太郎さんが第3位の結果を収めました。団体戦・個人戦ともに男子剣道部のこれからの活動が期待されます。

**PICK UP**  
interview

活躍する  
西南生!



### 中学校 坂本 照理さん

青少年読書感想文コンクール福岡県特選  
中学1、2年生は夏休みの宿題で読書感想文に取り組みます。青少年読書感想文コンクールにおいて、2023年度は1年生3名、2年生5名が福岡県入選に選ばれました。また、1年生の坂本照理さんが『太陽の子』についての感想文で福岡県特選に選ばれました。



### 高等学校 小田 向日葵さん

「自由すぎる研究EXPO」で2冠! 救急医学の学会誌にも掲載  
小田向日葵さんが119番通報アプリを試作し発表した「アプリ119通報システムの提案」が「自由すぎる研究EXPO」でアラビックヤマト賞とディスカバ!賞を受賞しました。また、現役医師と連絡を取って研究結果をまとめた「学生(小学・中学・高校生)の緊急通報に関する認識とスマートフォンアプリによる通報の可能性」は日本臨床救急医学会の学会誌に掲載されました。現在もアプリ改良の研究を続けています。

卒業生便り

世の光となっている卒業生の“今”を紹介します



株式会社アーリークロス 代表取締役  
 税理士法人アーリークロス CBO兼CPO  
 一般社団法人中小企業退職金制度支援協会 代表理事  
 一般社団法人共創経営推進機構 理事  
 アビスパ・グローバル・アソシエイト(AGA) 理事

花城 正也さん

西南学院中学校2001年卒・西南学院高等学校2004年卒

1985年生まれ。  
 2015年のクラウド会計黎明期から導入支援を行い、2016年には300件近くの企業にマネーフォワードクラウド会計の導入を行う。関与したクラウド会計の導入実績数は800件超。2017年に税理士事務所を立ち上げる。現在は140名体制でバックオフィスのDX支援・確定拠出年金の導入支援、財務支援・M&A・相続税申告などワンストップで中小企業の支援を行う。  
 2021年に中小企業の退職金問題を解決する為に一般社団法人中小企業退職金制度支援協会を設立し代表理事に就任。2022年には「得する社長、損する社長 中小企業のための確定拠出年金」を出版し、企業型確定拠出年金の普及に努めている。

今の働きに繋がる西南での学び

西南学院中学校・高等学校の卒業生として、私のこれまでの歩みを振り返りますと、その根底には常に学校での学びがあり、その中でも特に深く心に刻まれているのが、聖書から学んだ利他の精神です。

私が福岡で創業したアーリークロスは、中小企業の財務支援を軸に、140人の仲間と共に様々なサービスを展開しています。税理士法人や企業型確定拠出年金の導入支援まで、幅広い事業を手がける中で、2022年には書籍を出版し、累計発行部数は1万部を超えました。これらのビジネスも西南学院で学んだ利他の精神が基盤となっています。

西南学院の自由な校風のもとで、私たちはただ受験に必要な知識を学ぶだけでなく、社会で生きるための本質的な価値観を身につけることができました。特に印象深いのは、朝礼やチャペルでの聖書の学びです。そ

で学んだ「利他の精神」は、ビジネスの世界で経営判断を下す際の重要な指針となっています。例えば、利益を追求するだけでなく、どのようにして社会に貢献できるかを常に考え、行動すること。これが、私たちの事業が多くの方々に支持を得られている理由の一つなのは間違いありません。

私がこれまでに経験したこと、そして達成してきたことの多くは、西南学院での学びと、そこで育まれた価値観があつてのものです。

後輩たちに伝えたいのは、自分の利益だけでなく、他者や社会全体の利益を考えることの大切さです。そして、学んだことを実生活に生かし、常に新しい挑戦を恐れずに進む勇気を持つこと。西南学院での学びが、皆さんの未来にとっても、確かな基盤となることを心から願っています。

赤れんが SEINAN 今昔物語

1916年の創立以来、本校は福岡の地でさまざまな歴史を見てきました。このコーナーでは西南学院にまつわる思い出話を紹介し、西南学院の歴史の一端をひもときます。



本校2階の生物講義室となりにある「バイオミュージアム」をご存知ですか。そこに納められているほとんどの標本類は、西南学院が開設された頃に購入されたもので、教育において自然科学(博物学)が大切にされていたことを示すものです。

今の大学の敷地にあった旧校舎では、これらは標本室に納められ、普段は目にする機会がありませんでした。現在の校舎の建設が決まったとき、これを見た建設会社の設計技師が大変驚いて、標本をぜひ生かしたいと申し出てきました。この方は、東京上野にある大学の出身で、近くの国立科学博物館に何度も通っていたそうです。熱意あふれる技師と共に、生徒どうしに豊かな交流が生まれることを夢見て作り上げた空間です。

さあ、「バイオミュージアム」に行きましょう。生き物を通じて自然科学への興味がひろがり、君たちの将来をいっそう実りあるものにしてくれることを期待しています。

松澤一寛先生(元理科教諭)

卒業生 interview

東京大学 経済学部 在籍  
 藤木 一真さん

在校中、一番印象に残っていること

訪豪研修旅行という夏休みの短期海外研修が一番印象に残っています。自分にとってこの経験は価値観を広げるのみでなく、人との付き合い方を変えてくれたものでした。

大学生活、これは言いたい

自分のやりたいこと、得意なことについて悩んでいる方もいるかもしれませんが、それを見つけるためには相応の経験、知識が必要に思います。大学生活はまとまった時間がとれる最後の時間かもしれませんので、勉強にとどまらず是非様々なことに挑戦して自分なりの答えを見つけて欲しいです。

最後に一言

高校生活特有の気兼ねない友人関係や自由がない故の楽しさはなかなか得難いものです。月並みな言葉ではありますが、失って初めて気づく類のものだと思います。今理解するのは難しいかもしれませんが、高校生活を全力で楽しんでほしいです!



大分大学 医学部医学科 在籍  
 國武 里香さん

在校中、一番印象に残っていること

私は高校で男子バスケットボール部のマネージャーを務めました。毎日の昼休み、放課後の練習やみんなとの会話を今でも懐かしく感じます。もちろん練習は楽ではありませんでしたが、だからこそそうして思い返したときに1番の青春だったなと思います。あとは林間学校も最高の思い出です。

大学生活、これは言いたい

大学生は、よく人生最後の夏休みと言われます。私は今年3年生ですが、この2年間はあつという間でした。幼い頃からの医師になるという夢のために大学に来たので、勉強が忙しいのも当然のことだと思います。学ぶことはしっかり学んで、後悔しないくらいたくさん遊ぶ、かけがえない時間を無駄にせず色々な経験をしたいと思っています。

最後に一言

西南学院は校則はあるけどどこか自由で、生徒がのびのびと過ごせる学校だったと思います。校内の設備が綺麗だから、それも心地よかったのかもしれません。私は公立高校に落ちて西南学院高校にきましたが、この学校に来られてよかったと今は心から思っています。西南学院に入れば、きっと素敵な学生時代を送ることができます。二度と戻れない学生生活を大好きな母校で謳歌してほしいなと思います。



### 過去3年間の大学合格者数

国公立大学は九州大学を中心に、北は北海道から南は沖縄まで幅広く全国に進学しています。また私立大学は西南学院大学をはじめ、関東関西の難関大学へも数多く進学しています。

国公立大学	2024	2023	2022	私立大学	2024	2023	2022
北海道大	1		2	早稲田大	15	19	11
東京大		1		慶応大	6	9	5
東京工業大			1	上智大	9	7	3
京都大	3	2		東京理大	20	17	19
大阪大		4	5	学習院大		4	1
神戸大			4	明治大	19	19	19
九州大	20	26	23	青山学院大	13	11	13
筑波大	2	2	1	立教大	10	16	11
東京外大	2	1		中央大	9	9	11
横浜国立大	2	3	1	法政大	14	13	16
広島大	4	4	3	関西学院大	32	34	25
山口大	2	4	1	関西大	13	10	14
九州工大		8	4	同志社大	18	34	24
福岡教育大	1	6	4	立命館大	35	71	72
北九州市立	1	4	2	国際基督教大	2		1
佐賀大	7	14	11	西南学院大	180	174	161
熊本大	7	9	8	海外への進学情報	2024	2023	2022
				北米・アジア・オセアニア等	3	3	3

※最新の合格者数については、ホームページをご参照ください。

### 私の合格体験記

杉町 和花さん | 京都大学 文学部人文学科 合格

大学受験の助けになった西南ならではの強みはチャペルの授業と先生方でした。チャペルの授業では、毎週様々なバックグラウンドを持った講師の方のお話を聞くことで、自分の知らない世界に興味を抱ききっかけになりました。また、西南の先生方は生徒一人ひとりの意思を尊重してくださるので、受験生活を支えてくださる心強い存在でした。私が志望校を決めるにあたって、西南の生活の中に直接的な契機があったわけではありません。しかし、振り返ってみると、チャペルの授業を通してもっと広い世界に飛び込みたいという気持ちが育まれたからこそ離れた地で大学生活を送る決断に至ったのかもしれないし、西南の先生方はどんな目標でも応援してくださるという信頼があったからこそ京都大学という高い目標を追い続けることができたのだらうと感じます。

植田 彩紗さん | 熊本大学 工学部材料応用化学科 合格

西南での学びは、学力だけでなく、自分自身を高めることができると思います。私は、西南のチャペルの時間などを通して様々な生き方、考え方に触れ、将来についてたくさん考えることができました。また、国際的なプログラムもあり、将来必要なスキルを身につける機会を与えられたことが、今の私の目標にもつながっています。私が本格的に受験の準備を始めたのは高3の6月頃からでした。小論文や面接などが必要だったため、先生方には休み時間、夏休みの合間を縫って手厚いサポートをしていただきました。様々な考えをもった友人と会話をして、励まし合うことでも受験期を乗り越えることができました。私は西南学院の多様性豊かな環境で学生生活を送れたことを誇りに思っています。

### 目に見える形での中高一貫の完成



校長 早川 寛

昨年の9月、中高一貫になって初めての中高合同行事ともいえる「中高合同体育祭」が、そのうちの1日を福岡PayPayドームを会場にして行われました。中1から高3までの生徒が、ひとつになって笑顔で広い人工芝の上を動き回る姿は実にダイナミックで、ロマンチックでさえありました。例えば騎馬戦という帽子取り競技では、高校生が騎馬となり、乗馬する中1の生徒を支える姿はとても微笑ましい光景でした。また、ブロック対抗リレーでの中1から高3までのバトンの受け渡しは、「信頼」の絆を象徴するかのようでした。さらにクライマックスともいえる全体応援では2000人近くの生徒と4000人を超える観客が一体となり、歓喜の声をあげる熱気は、まさに中高一貫の完成を目に見える形で確認させていただいた瞬間でした。「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。」 (詩編98編4節)

### 聖句

あなたがたはそれぞれ、  
賜物を授かっているのですから、  
神のさまざまな恵みの善い管理者として、  
その賜物を生かして互いに仕えなさい。

(ペトロの手紙一4章10節)

この学院聖句は、西南学院中高という学校の土台・骨格について語る聖書箇所だと思います。西南学院は、生徒一人ひとりに固有に与えられている価値観、視点、個性に気づき、自分自身と出会う学び舎を目指します。そして、西南学院は、それらの力と恵みをそれぞれが自由に、安心して表現することができる場所であり、互いに受け入れ合い、認め合うことのできる共同体であることを目指します。目には見えなくても、人と共にいてくださり、共に歩んでくださる神が、西南中高につらなる一人ひとりを祝福し守ってくださいますように。

### Seinan, Be True To Christ

#### 西南よ、キリストに忠実なれ

西南学院は1916(大正5)年、米国南部バプテスト派の宣教師であったC.K.ドージャーによって創立されました。その遺訓『西南よ、キリストに忠実なれ』(Seinan, Be True To Christ)に示されている理念を建学の精神として後継者たちが大切に今日まで受け継いできました。西南学院は建学の精神とその使命を基に、平和、人類愛、自由を理解し、真理に基づき世界を導く人、他に先駆けて善や正義を実行する精神を持つ人、そして、他者や社会、さらに地球を思いやる心を持ち、真の平和を実現する人を育成することを目標にしています。



### 隅石

年の初めに恩師の訃報が届いた。突然のことで未だにどこか現実味が無い。高校三年間国語を教えていただき、教育実習の際には指導教官として教えを仰いだ。先生のおっしゃることについていくのに必死で、あっという間に時が過ぎていった。教員として母校に戻ってからも、関係性は相変わらず。いつも叱咤激励していただいた(といえば聞こえがよいが、実際はもっと手厳しい言葉をかけられた)。退職を機に故郷に戻られてからも折に触れて連絡をいただき、含蓄と示唆に富む言葉をかけていただいた。先生からは本当に多くの言葉を授けていただき、私を形作る一部になっていると感じるが、中でも強く印象に残っているのが、「今日も主の御光の中を生徒が歩みますように」という祈りの言葉である。型破りな性格でたまに閉口することもあったが、本が好きで、お酒が好きで、音楽が好きで、何より生徒が好きで先生らしい言葉だと思ふ。西南学院にはこういう温かさがある。諸先輩方が築かれてきたこの雰囲気を受け継ぎ、次代へ繋いでいかなければならない。師を偲びつつ、改めて祈りの言葉を胸に刻んでいる。

### 西南学院中学校・高等学校

〒814-8512 福岡市早良区百道浜1丁目1番1号  
TEL(092)841-1317 FAX(092)845-6295  
ホームページ <https://hs.seinan.ed.jp/>



ホームページ



公式 YouTube はこちら

